

平成26年度地域自立支援協議会交流会 全体会概要

○ 各グループからの討議内容の報告

(コーディネーター)

- ・ 都の協議会は、約2年前に第三期が始まった。第三期の前期が今年の3月に終わり、現在、第三期の後期に入っている。
- ・ 自分が会長になった時に、都の協議会は、各区市町村の協議会がうまく活動できるようにバックアップするのが役割と話した。
- ・ 各地域協議会の活動内容を教えていただきながら、共通項やそれぞれの特徴を把握したうえで活動していきたいと考えている。
- ・ 今回の交流会では、「相談支援を担う人材」「地域移行、地域定着の促進」「権利擁護」のテーマで、ディスカッションしていただいた。
- ・ 全体会では、各グループから討議内容の報告をいただいて、全参加者で共有したいと考えている。

(グループのファシリテーターからの報告)

< 省略 >

○ コーディネーターによるまとめ

- ・ 他自治体の状況を踏まえて、討議をしていただいた。
- ・ 討議の要約版を HP に掲載するが、今日の内容を持ち帰っていただいて、地域の協議会でお伝えいただければと思う。

<都協議会における議論>

- ・ 先ほど、都の協議会が第三期の後期に入ったという話をした。今年の3月まで1年半取り組んできたことも交えてお話ししたい。
- ・ 第三期の都の協議会では、ライフステージということにこだわって考えてきた。
- ・ 障害福祉は、社会福祉の各分野の中で最も長い期間支援していくのが特徴。先天性の方も後天性の方も含めて、生まれてから亡くなるまで、かなりの長期にわたって一人の人を支えていく。
- ・ 取り組むべき仕事の幅は広く、多方面の人と協働しなければならない。
- ・ 都の協議会では、生まれてから高齢期までを横軸にして、どのような人がどのような支援をしているか考えてきた。
- ・ ライフステージのそれぞれの期の中にも課題はあるが、例えば乳幼児期から学齢期になるとき (around 6 (歳))、学齢期から青年期になるとき (around 18 (歳)) などの移行期の支援、また、18歳から20歳までの間の支援の課題も見えてきた。
- ・ 青年期についても、児童福祉法から障害者総合支援法への移行や日中活動、住まい、

教育など課題が多い。

- ・ 今回のテーマの権利擁護については、around 40（歳）。40でよいか議論はあると思うが、親亡き後の問題が浮上してくる。成年後見制度などを含めて考えていく必要がある。
- ・ 壮年期から高齢期では around 65（歳）。この時期に、障害者総合支援法から介護保険への移行の問題が出てくる。
- ・ このようにステージが移行する時期のサービスが不足していたり、支援のバトンをうまく渡せていないなどが課題であるということが分かった。

<グループ討議について>

「権利擁護」

- ・ 権利擁護のテーマでは、障害者権利条約の話があった。我が国もようやく批准したが、この後が重要。インクルーシブということはどう考えるか。
- ・ 障害者のためだけでなく、皆が使えて、特に障害者に配慮ができたサービスや制度ができる方がよいということも確認できた。
- ・ 虐待防止センターや障害者差別解消法の協議会ができてくるのに、どうして自立支援協議会に権利擁護部会が必要なのかという議論があった。いろいろな関係者が集まって、何かが起こってからではなく、起きる前に考えるのが自立支援協議会だと思う。
- ・ 自立支援協議会が、地域で起こっている権利侵害は何かということを確認し合う場になればよいと考えている。
- ・ 知的障害者と子どもとのトラブルの話があった。そういったトラブルは枚挙に暇がないが、それをきっかけにして、どのように地域の体制を整えていくか、協議会や支援者の力量が求められると感じた。
- ・ また、ヘルプカードについては、各地域でどのように活用していくかを大事にして活動されていることがよく分かった。
- ・ 今回は話が出ていなかったが、矯正施設を退所した障害者の支援も考えなければならない。

「相談支援を担う人材」

- ・ 人材育成については、量だけではなく質が重要ということで今回テーマとして取り上げた。
- ・ 自立支援協議会が行う人作りとは何かという問題が、皆さんの話から見えてきた。
- ・ 自立支援協議会が人材を育成する場合、その地域でどのようなサービスが求められていて、それをどのような人に担ってほしいのかを考えながら人作りをしていくことが大事。
- ・ 個人情報などの課題もあるが、事例検討を丁寧に積んでいるという話もあった。
- ・ また、自立支援協議会が具体的な成果を作っていくという意味で、相談支援のツールを作っている自治体もあった。

- ・ 基幹相談支援センターを立ち上げたものの、どう活用していくのかといった話も聞く。これについては、都の協議会でも重要な議題として考えていきたい。

「地域移行、地域定着」

- ・ 地域移行、地域定着については、都の協議会において、十分な検討ができていない。
 - ・ 今回の討議では、身近な地域だけでなく、広い範囲の支援が必要という話が出ていた。
 - ・ 広範囲の連携が必要ではあるが、核になるのはやはり地域。その上で協議会が何をするのかという重要な議論があった。都の協議会でも考えていきたい。
 - ・ 地域への移行を求めている人が、どこにどれくらいいるのかかがあいまいになっているが、地域の協議会で情報共有していく必要がある。
 - ・ 広範囲の支援になるので、広域の連絡会を作ってはどうかという議論もあった。
 - ・ また、福祉分野だけではなく、他領域への普及啓発が重要という話もあった。
-
- ・ 今回討議したことは、これからも続いていく。これからも皆様にご意見をいただきたい。